

「応援します!! あなたの農業」

# あぐりサポートニュース

福島県農業振興公社だより

第 3 4 号 平成 2 3 年 3 月

発行元 福島市中町 8 番 2 号  
財団法人福島県農業振興公社  
TEL 024-521-9834 FAX 024-521-8277

## D”ATCH(ダッチ)の安齋良幸さん、知事賞を受賞!

～ 平成22年度『福島県農村青年会議』～

平成22年度『福島県農村青年会議』を、福島県農業青年クラブ連絡協議会と当公社が主催して、平成23年2月4日(金)、郡山市労働福祉会館で開催いたしました。

会議は、県内の農業青年や関係者等約70名が出席し、「プロジェクト発表」及び「意見発表」並びに山形ガールズ農場代表の高橋菜穂子さんの「女子から始める農業改革～女性農業者の視点から～」と題する講演を受け研修を行いました。

「プロジェクト発表」は、D”ATCHの安齋良幸さんが発表した「施肥体系と摘葉・摘芯方法の違いがキュウリの収量に及ぼす影響について」が、キュウリ栽培の実態を見直し、施肥の削減と摘葉・摘芯

作業の改善により生産性向上を図ったことが高く評価され、最優秀賞(県知事賞)を受賞しました。



知事賞(プロジェクト発表): 安齋良幸さん

「意見発表」は、須賀川4Hクラブの設楽哲也

さんが発表した「農業・農家のイメージ」が、農業を客観的に捉え、消費者に農業の良さと楽しさを表現する内容と発表態度が評価され、優秀賞(県農業振興公社理事長賞)を受賞しました。

両名は、本年11月開催の『東北農村青年会議岩手大会』に本県代表として出場しますが、さらに発表方



公社理事長賞(意見発表): 設楽哲也さん

法や発表態度に磨きをかけ、東北大会での活躍を期待します。

なお、他の受賞者は次のとおりです。

「プロジェクト発表」

◇優秀賞(県農業振興公社理事長賞)

県農業総合センター農業短期大学校 吉田栄吉

◇優秀賞(県農業青年クラブ連絡協議会長賞)

いわき農業青年クラブ連絡協議会 折笠明憲

「意見発表」

◇優秀賞(県農業青年クラブ連絡協議会長賞)

東白川4Hクラブ 八幡祐二

## 県下全域に農地利用集積円滑化団体設置される！

一昨年12月農業経営基盤強化促進法が改正されたに伴い、県内各地域で農地利用集積円滑化団体（以下「円滑化団体」という。）の設置が進められ、昨年12月をもって、農業経営基盤強化促進基本構想を策定した市町村すべてに設置されました。

設置された円滑化団体は、市町村3、地域担い手協議会2、市町村公社1、JA15の21組織です。円滑化団体は市町村毎に円滑化事業規程の承認を受ける必要があること（広域JAは複数の市町村で承認）、また、同一市町村で複数の円滑化団体が設置されたところもあることから、58市町村で延べ62の円滑化団体（円滑化規程の承認数）が設置されることとなりました。

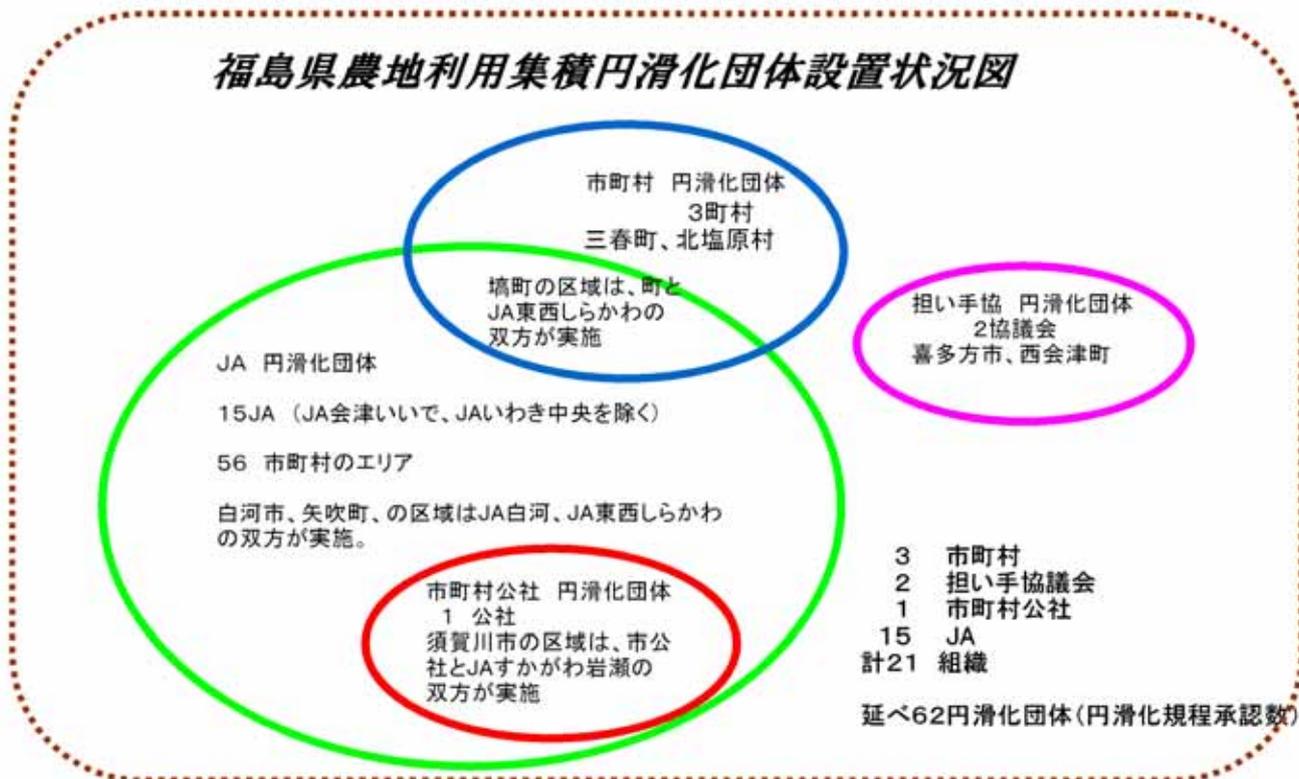
平成23年度は、戸別所得補償制度の本格実施の開始となりますが、円滑化団体は同制度におい

て、農地利用集積円滑化事業を活用し面的集積となる利用権設定が、規模拡大加算の対象となるなど重要な位置付けとなっています。

また、当公社も円滑化団体との連携に基づく農地保有合理化事業実施の推進を図るほか、円滑化団体に対する活動支援をして参ります。特に、円滑化団体への支援については、福島県、JA福島中央会と協議の上、旧農地合理化法人連絡会議同様、これら円滑化団体との連携・相互研鑽を図るため、農地利用集積団体連絡会議（仮称）の発足を予定しています。

なお、これら連携と支援については、平成23年3月11日福島市で開催される「平成22年度福島県農地流動化関係事業担当者会議」において詳しくご説明いたします。

### 福島県農地利用集積円滑化団体設置状況図



## 新規就農相談者数が119名

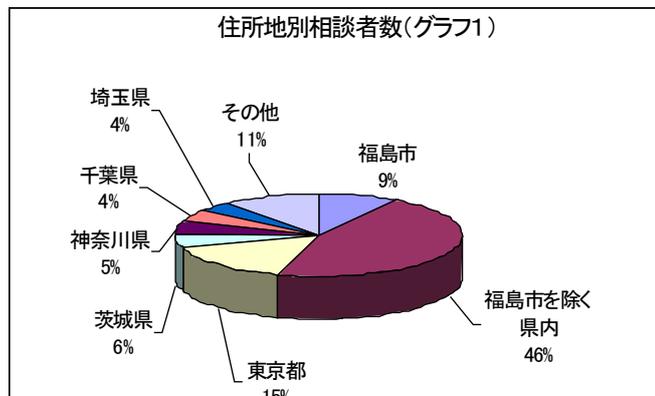
### ～ 青年農業者等育成センターの相談活動状況 ～

青年農業者等育成センターでは、新規就農希望者の相談業務を行っています。平成22年度（平成23年1月末現在）の相談者数は119名となっています。



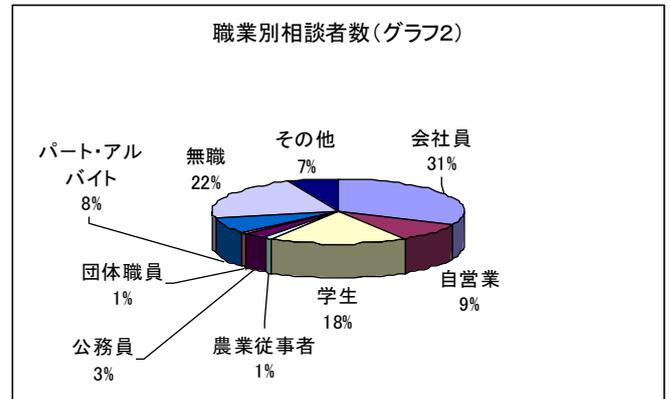
相談者の住所地を見ると半数以上の65名（55%）が県内の方で、次いで関東近県を中心とした県外の方からの相談となっています。

（グラフ1参照）



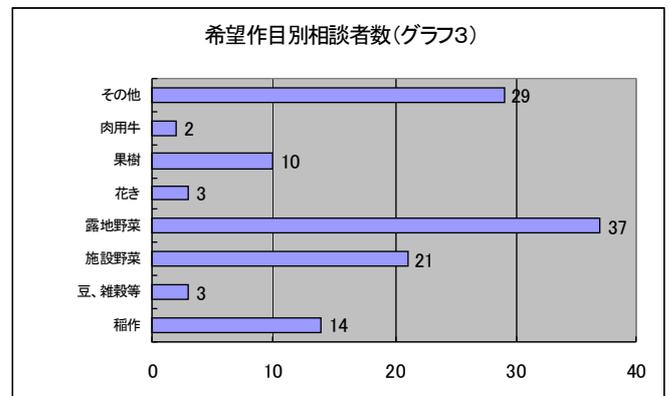
職業別では、会社員の方からの相談が最も多く、38名で全体の31%となっています。

（グラフ2参照）



希望作目は、露地野菜が多く37名、その他（未定、不明を含む）29名、施設野菜21名の順となっています。

（グラフ3参照）



### 今月のコラム

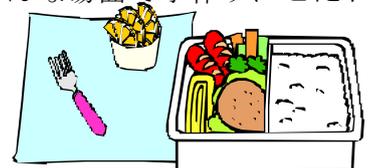
#### 時代の流れ

昔の人は器用で何でもできる。そう思っている人も多いと思うが、昔は自分で作らなければ何事もなかったという。遊び道具にしてもそうである。

竹とんぼに水鉄砲…。すべて手作りである。必然と、考える知恵も出来てくる。作らなければ遊べないのである。しかし今はどうだろう。お金を出せば何でも買える。何か作ろうとしても刃物は危ないからと持たせない。勉強をすれば頭は良く

なっても、手先の器用さとは程遠くなる。それも仕方がないことなのか。

かく言う私も、最近は出来合いの総菜や冷凍食品を多用し、手のかかる料理をあまり作らなくなっている。そのせいか体重はさほど変わらないのに、体型は随分と変わってしまった。これを機に料理だけでなく、いろんな場面で手作りにこだわっていったらと思う。



## 一 利用者の声 公社リース事業で農業経営の改善を実現 鏡石町 和田和久氏一

私は現在、鏡石町において約20haの水稲を主とした農業経営をしております。米は、主に個人消費者やスーパーなどへ直販を行っています。

以前から農業公社の農業用機械リース事業があるという話は、耳にしておりました。

当時は、年々規模拡大していたことから、秋作業はとても大変でした。日中は妻と二人で4条刈りのコンバインでの刈取り作業と粃運搬、夜間は乾燥調製、そして早朝は粃すりという日々が約1ヶ月続き、雨の日以外は睡眠時間がないような状況でした。

そこで、秋の収穫作業で、特に刈取り作業の効率化が必要と思い、高性能のコンバイン導入を検討しましたが、資金もあまりない中でどうしようかと迷っていたところ、農業公社の農業用機械リース事業を思い出しました。町農業委員会事務局に相談したら、早速、農業公社の担当者が来て事業内容の説明を受けることができました。

その他、民間のローン会社のリース事業もあることを聞き、農業公社、民間会社のリース事業の比較検討しましたが、公社のリース事業により5条刈りのコンバインを導入することにしました。

公社のリース事業を選択したのは、販売会社3社からの競争見積りにより決まった購入価格を基にリース料金が決定されるなど、その違いが大きいことでした。また、負担するリース料金は100%経費算入できることです。

平成19年に農業用機械リース事業を活用後、



リース事業で導入したコンバインと和田さん

受託面積も3haほど増加したことから、毎年12月のリース料約200万円もそれほど大きな負担となりませんでした。

また、大型コンバインを導入したことで、今年から賃借地の隣接地1.2haも新たに賃借することができ更なる作業効率の向上にも繋がることとなりました。

長男も2年前にサラリーマンを辞め自宅に戻り、昨年からは農業後継者として、私と共に農業に取り組んでおります。

今回のリース事業活用は、秋作業の効率化により規模拡大が図れたことや肉体的負担も改善され大変よかったですと思います。しかしながら、農業公社に従来あったリース料の半額が助成となる制度が廃止となったことは残念に思います。

今後も農業情勢が厳しさを増すと思いますが、専業で頑張っている農業者が気力を損なわないよう、応援していただきたいと思います。

**編集後記** 今年の冬は、いつになく雪が多く、雪下ろしのボランティア活動や除雪費のパンクなど雪まつわる報道が多かったようです。

また、ニュージーランドでは、2月22日マグニチュード6.3、チリでは、27日にマグニチュード6.0の大地震が起り連日被災状況が報じられています。異常気象と災害が続発し地球規模の異変が心配されています。

異変の予感、農業・農地制度でも、23年度本格実施の戸別所得補償は円滑に進むのかとか、平成21年に続き農地制度改正の論議が始められ

るなどに現れています。激震が走らないよう祈るばかりです。

何はともあれ、本紙の編集が終わるといよいよ平成22年度の締めくりへ突入です。 S M

お問い合わせ

あて先 〒960-8681

福島市中町8番2号 福島県自治会館8F

財団法人福島県農業振興公社 総務課

T E L 024(521)9834 FAX 024(521)8277

URL <http://www.fnk.or.jp>